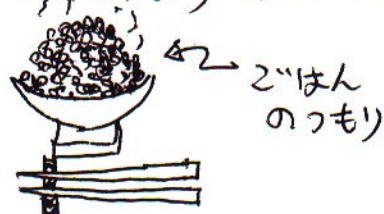




「とよ・たぢ通信」

9月号

皆様！ 第2回「とよ・たち」美肌通信の刊行  
です。「いやあ～今年の夏は暑かたですわー!!」  
まだまだ9月は残暑も厳しいと思いますが、  
世のお母様にとって1つの朗報は、夏休みが終  
つたことで1日3食の手間が2食に減った事  
ではないでしょうか？ 何よりのこととお慶び申  
上げます。



ところで

私は、9月をおかえると毎年あき事を思い出  
します。それは、今から4年前と5年前に大学病  
院から出向し勤務していた石川県は能登半島  
にあるトある総合病院の皮膚科医長時代の  
ことです。私が住んでいたのは、二方は山に  
囲まれ、二方は海に面している。これはそれは  
海の幸・山の幸に恵まれた自然(しか)な(り)戸で  
した。そこは漁師町でもあり、また、町営の海洋  
深層水を飲用(お汁～飲用水まで全て)として  
飲む(もちろん有料ですが町民には安く提供される)

それはそれは贅沢な所です。港の岸壁に立てば、直ぐ下の海をイカが「ツッー」と泳いでいましたし、中学生は内緒でウニを採って小料理屋に持っていったりもしている

長閑な所でした。 { ヒックリする位 魚が美味  
しいですよー!! その為か我が  
子が肉より魚が大好きで  
す。 }  
橋木の人には信じられない“ワンダーランド”  
です。

7月には「あはれ祭り」という2日間連続して昼夜を問わず町全体が熱中する一大イベントもありました。

そんな町で9月~10月までの約2ヶ月間、私にとっておどろ動中物との闘いがありました。

これは、『マムシ』との闘いです。正確には、

『マムシ咬傷』の患者様の治療なのですが、

どうゆう事かと言うと、その地域では火になる  
とよくマムシを焼酎に漬けたり、皮を剥いて  
精力剤と称して焼いて食ったりする人がおるゆ  
えの人達がマムシに咬まれ病院に来院します

した。ある患者様は足が「ラエモ」の様に  
腫れたりとか、手指が2倍にも腫れ、まるで  
「フランクフルト」かの様になる人もおられました。  
私の仕事はその都度、腫れている皮膚の色調  
や場所や程度に応じて重症度を考え  
血清を点滴するかどうか判断し、時には  
切開して患部を洗ったりしなければならず、  
内心困ることもあり「マムシ」を恨んだいもの  
でした。「早く冬眠にしまえ!!」

しかし患者様の中には冬眠  
に入ったマムシをわざわざ  
土から掘りおこして咬まれ  
た人もいました。残念

この時期(月の声を聞くと)マムシの事を懐かしく思  
うのです。 ハセが嫌いな人すみませんでした。

追付: 全く関係ないと思いますが、現在6才の長男  
はハセが大好きで、去年「しおや幼稚園」  
の裏山でヤマカガシを捕まえて振り回し周囲  
を驚かせていました。ちなみにヤマカガシには、

奥歯に毒を持ち、頭の付け根(首)の  
頸腺という所から毒が出ると長男が言っ  
ておりました。

尚、私(院長)は「ヒ」を含む爬虫類全体  
は大の苦手です。<sup>息子</sup>「あ、か、す」。

今回は、何処か『美肌通信やねん!』

という話題でしたが、書かずにはいられ  
ませんでした。...

院長： 川信幸